

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-154	13-013	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Changes in alcohol consumption in pregnant Australian women between 2007 and 2011. オーストラリア人の妊婦における 2007～2011 年のアルコール摂取の変化		
<b>執筆者</b>		
Cameron CM, Davey TM, Kendall E, Wilson A, McClure RJ.		
<b>掲載誌</b>		
Med J Aust. 2013 Sep 2;199(5):355-7.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
妊婦、アルコール摂取、推移、オーストラリア		23992193
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> オーストラリア人妊婦におけるアルコール摂取割合の 5 年間の推移を明らかにする。</p> <p><b>方法：</b> 横断的に繰り返しサンプルしたデータより、妊娠中のアルコール摂取の推移解析を行った。妊婦は東南のクイーンズランド州と北東のニューサウスウェールズ州で行われた出生コホート研究 (The Griffith Study of Population Health: Environments for Healthy Living) に登録された。社会人口学およびアルコール摂取のデータは自己申告から得た。アルコールは、妊娠中および妊娠 3 ヶ月時点でのアルコール摂取の有無と危険な飲酒習慣 (5 杯以上/回) の有無を調査した。</p> <p><b>結果：</b> 2,731 名の妊婦のデータより、研究期間中のアルコール摂取者が減少していることが観察された。2007 年は妊婦の 52.8% がアルコールを摂取したのに比し、2011 年は 34.8% であった (<math>P&lt;0.001</math>)。妊娠 3 ヶ月後に飲酒した女性の割合は、同様に 42.2% から 25.8% に減少した。しかしながら、妊娠中または妊娠 3 ヶ月後での危険な飲酒習慣を有する妊婦の割合は 5 年間で変わらなかった (<math>P=0.12</math>)。低容量のアルコール摂取は高齢女性 (<math>P&lt;0.001</math>)、高い教育 (<math>P=0.01</math>)、高い世帯収入と関連した (<math>P&lt;0.001</math>)。一方、妊娠 3 ヶ月後の危険な飲酒習慣は低い教育 (<math>P=0.011</math>)、ひとり親であることと関連した (<math>P=0.001</math>)。</p> <p><b>結論：</b> 本研究は 2007～2011 年においてアルコール摂取を報告した妊婦の割合の着実な、そして統計学的に有意な減少を示した。さらなる減少のためには、地域住民に対する公衆衛生上のメッセージと高リスクの人々に対する戦略が必要である。</p>		